

2024年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人協同福祉会	代表者	大國 康夫	法人・事業所の特徴	尊厳のある対応＝利用者本位。 日常生活におけるリハビリ。 落ち着いた居場所づくり（設備面含む）。 行政及び地域との関係性づくり（会議・企画への参加、地域貢献活動）
事業所名	あすならホーム桜井	管理者	香西知子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	人	4人	1人	人	3人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 職員総数を表記する 地域のイベントなどにも積極的に参加し、地域との関係性を作る 	<ul style="list-style-type: none"> サービス評価時に職員の体制を共有した。 地域のお祭りに参加できた。 	「スタッフ各々の取り組姿勢が、大小有ると思いますので、全体の評価はしにくいと思います」	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き評価に必要な具体的事例を提示し、評価の客観性を向上します。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 行方不明者をださない取り組みをする。万一の場合に備え対応訓練を行い、即時解決を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 見守りの必要な方には1対1で対応し警察対応まで必要な行方不明者は出なかった。 事業所の外に出られたケースは数件あったが、連絡ツールを使用し軽微な対応で進める事が出来た。 	「家族の方のお話を聞いていると、満足度の高い評価が得られている様思います。また居心地はいいと思います。」	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有ツールの使用を周知し今後の対策に活用します。 利用者本人への満足度調査を検討します。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 地域からの声を聴けるように職員と地域との関係を強化する 最低月3回のサロン活動を継続させる 	<ul style="list-style-type: none"> サロン運営から困り事がある方には適切に包括やサービス紹介、見学対応が出来ている。 月6回の開催が出来ている。 	「職員の皆様には、表情明るく快活に見えます。」 「地域の氏神社秋祭りに、毎年参加いただき、かかわりに関しては、年々良好になっております。」	<ul style="list-style-type: none"> 会議での意見交換など、地域からの声を聞く機会を増やします。 サロン活動を継続し参加者が主体的に運営ができるようにします。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	お出かけ企画を立案し、月1回は実施する	<ul style="list-style-type: none"> 実施出来ている 		<ul style="list-style-type: none"> イベントのSNS等で実施状況共有します。 利用者の希望を取り入れた企画を立案します。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議に毎回参加し、運営状態を報告、理解を得る 	<ul style="list-style-type: none"> 見学会やおたより等で日々の運営状況を報告している。 	「運営推進会議に、出席してなかなか現実には、一緒に取組ができていくと感じております。」	<ul style="list-style-type: none"> 家族様の会議参加を促進し、意見交換を活性化します。 地域の課題や改善策についても議論します。
F. 事業所の防災・災害対策	2024年度の運営推進会議でBCP事業計画の報告をする	<ul style="list-style-type: none"> 訓練の実施状況を報告 	「区協議会といたしましては、事業所と共に、地域の防災訓練を予定して行きたいと思っております。毎年秋に区・町防災、消防団、市と連携して大掛かりな訓練を実施しており、今秋には、事業所に呼び掛けたいと思っております。」	<ul style="list-style-type: none"> 地域の防災訓練への参加を呼びかけ、事業所独自の訓練計画も見直します。 BCP計画を周知徹底し、定期的な訓練を実施します。